

皆様おはようございます。

主の受難を覚える時を過ごしております。

今日はルカ22章。今日の聖書箇所の前の所ですが、ここには過越の祭りのことが記されております。

1 さて、過越といわれている除酵祭が近づいた。

2 祭司長たちや律法学者たちは、どうかしてイエスを殺そうと計っていた。民衆を恐れていたからである。

イエス様の存在は、祭司長、律法学者たちの脅威となっていました。イエス様の影響力が、余りにも民衆に強く及んでいたからです。その存在を疎ましく思い、敵意を抱きながらも、民衆の手前手を出すことが出来ませんでした。しかしよいよ殺意に燃えた彼らは、どうやってイエス様を殺そうかと計っていました。

そして、過越の小羊をほふるべき除酵祭の日が来ました。

金曜日、イエス様は世の罪を取り除く小羊として十字架にかかります。

その過越の祭りの日、羊を殺し血を門柱に塗る日、イエス様もまた十字架にかかりました。その前夜、ユダヤの暦では夜から一日が始まりますのでその祭りの日となりますが、その夜、イエス様は弟子たちに優しく給仕をして、ご自分の身体と血とを、パンとぶどう酒にたとえて弟子たちに供されました。

出エジプト記 12:1 主はエジプトの国で、モーセとアロンに告げて言われた、

12:2 「この月をあなたがたの初めの月とし、これを年の正月としなさい。

12:3 あなたがたはイスラエルの全会衆に言いなさい、『この月の十日におのおの、その父の家ごとに小羊を取らなければならない。すなわち、一家族に小羊一頭を取らなければならない。

12:4 もし家族が少なくて一頭の小羊を食べきれないときは、家のすぐ隣の人と共に、人数に従って一頭を取り、おのおの食べるところに応じて、小羊を見計らわなければならない。

12:5 小羊は傷のないもので、一歳の雄でなければならない。羊またはやぎのうちから、これを取らなければならない。

12:6 そしてこの月の十四日まで、これを守って置き、イスラエルの会衆はみな、夕暮にこれをほふり、

12:7 その血を取り、小羊を食する家の入口の二つの柱と、かもいにそれを塗らなければならない。

12:8 そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。

12:9 生でも、水で煮ても、食べてはならない。火に焼いて、その頭を足と内臓と共に食べなければならない。

12:10 朝までそれを残しておいてはならない。朝まで残るものは火で焼きつくさなければならない。

12:11 あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。

12:12 その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる人と獸との、すべてのういごを打ち、またエジプトのすべての神々に審判を行うであろう。わたしは主である。

12:13 その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。わたしがエジプトの国を擊つ時、災が臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう。

12:14 この日はあなたがたに記念となり、あなたがたは主の祭としてこれを守り、代々、永久の定めとしてこれを守らなければならない。

12:15 七日の間あなたがたは種入れぬパンを食べなければならない。その初めの日に家からパン種を取り除かなければならぬ。第一日から第七日までに、種を入れたパンを食べる人はみなイスラエルから断たれるであろう。

12:16 かつ、あなたがたは第一日に聖会を、また第七日に聖会を開かなければならない。これらの日には、なんの仕事もしてはならない。ただ、おのおのの食べものだけは作ることができる。

12:17 あなたがたは、種入れぬパンの祭を守らなければならない。ちょうど、この日、わたしがあなたがたの軍勢をエジプトの国から導き出したからである。それゆえ、あなたがたは代々、永久の定めとして、その日を守らなければならない。

12:18 正月に、その月の十四日の夕方に、あなたがたは種入れぬパンを食べ、その月の二十一日の夕方まで続けなければならない。

12:19 七日の間、家にパン種を置いてはならない。種を入れたものを食べる者は、寄留の他国人であれ、國に生れた者であれ、すべて、イスラエルの会衆から断たれるであろう。

12:20 あなたがたは種を入れたものは何も食べてはならない。すべてあなたがたのすまいにおいて種入れぬパンを食べなければならない』』。

12:21 そこでモーセはイスラエルの長老をみな呼び寄せて言った、「あなたがたは急いで家族ごとに一つの小羊を取り、その過越の獸をほふらなければならない。

12:22 また一束のヒソップを取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かもいと入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出てはならない。

12:23 主が行き巡ってエジプトびとを撃たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つのを許されないであろう。

12:24 あなたがたはこの事を、あなたと子孫のための定めとして、永久に守らなければならない。

12:25 あなたがたは、主が約束されたように、あなたがたに賜る地に至るとき、この儀式を守らなければならない。

12:26 もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、

12:27 あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを擊たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである』。民はこのとき、伏して礼拝した。

12:28 イスラエルの人々は行ってそのようにした。すなわち主がモーセとアロンに命じられたようにした。

12:29 夜中になって主はエジプトの国の、すべてのういご、すなわち位に座するパロのういごから、地下のひとやにおる捕虜のういごにいたるまで、また、すべての家畜のういごを擊たれた。

12:30 それでパロとその家来およびエジプトびとはみな夜のうちに起きあがり、エジプトに大いなる叫びがあった。死人のない家がなかったからである。

12:31 そこでパロは夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せて言った、「あなたがたとイスラエルの人々は立って、わたしの民の中から出て行くがよい。そしてあなたがたの言うように、行って主に仕えなさい。

12:32 あなたがたの言うように羊と牛とを取って行きなさい。また、わたしを祝福しなさい」。

12:33 こうしてエジプトびとは民をせき立てて、すみやかに国を去らせようとした。彼らは「われわれはみな死ぬ」と思ったからである。

12:34 民はまだパン種を入れない練り粉を、こばちのまま着物に包んで肩に負った。

12:35 そしてイスラエルの人々はモーセの言葉のようにして、エジプトびとから銀の飾り、金の飾り、また衣服を請い求めた。

12:36 主は民にエジプトびとの情を得させ、彼らの請い求めたものを与えさせられた。こうして彼らはエジプトびとのものを奪い取った。

12:37 さて、イスラエルの人々はラメセスを出立してスコテに向かった。女と子供を除いて徒步の男子は約六十万人であった。

12:38 また多くの入り混じった群衆および羊、牛など非常に多くの家畜も彼らと共に上った。

12:39 そして彼らはエジプトから携えて出た練り粉をもって、種入れぬパンの菓子を焼いた。まだパン種を入れていなかったからである。それは彼らがエジプトから追い出されて滞ることができず、また、何の食料をも整えていなかったからである。

12:40 イスラエルの人々がエジプトに住んでいた間は、四百三十年であった。

12:41 四百三十年の終りとなって、ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た。

12:42 これは彼らをエジプトの国から導き出すために主が寝ずの番をされた夜であった。ゆえにこの夜、すべてのイスラエルの人々は代々、主のために寝ずの番をしなければならない。

出エジプト記において、この小羊が屠られた金曜日の日没前、人々はその血をかもいと入口の二つの柱につけ、そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べました。

イエス様も、その肉と血とを捧げられました。世の罪を取り除く小羊として、その尊い命を捧げて、呪いと死とを私たちから過ぎ越させて下さいました。

出エジプト 12:23 主が行き巡ってエジプトびとを擊たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つのを許されないであろう。

ヤコブ 2:13 あわれみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される。あわれみは、さばきにうち勝つ。

除酵祭の種入れぬパンとは何でしょうか。

1コリント 5:1 現に聞くところによると、あなたがたの間に不品行な者があり、しかもその不品行は、異邦人の間にもないほどのもので、ある人がその父の妻と一緒に住んでいるということである。

5:2 それなのに、なお、あなたがたは高ぶっている。むしろ、そんな行いをしている者が、あなたがたの中から除かれねばならないことを思って、悲しむべきではないか。

5:3 しかし、わたし自身としては、からだは離れていても、靈では一緒にいて、その場にいる者のように、そんな行いをした者を、すでにさばいてしまっている。

5:4 すなわち、主イエスの名によって、あなたがたもわたしの靈も共に、わたしたちの主イエスの権威のもとに集まって、

5:5 彼の肉が滅ぼされても、その靈が主のさばきの日に救われるよう、彼をサタンに引き渡してしまったのである。

5:6 あなたがたが誇っているのは、よろしくない。あなたがたは、少しのパン種が粉のかたまり全体をふくらませることを、知らないのか。

5:7 新しい粉のかたまりになるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、事実パン種のない者なのだから。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにはぶられたのだ。

5:8 ゆえに、わたしたちは、古いパン種や、また悪意と邪惡とのパン種を用いずに、パン

種のはいっていない純粹で真実なパンをもって、祭をしようではないか。

イエス様は、私たちの心の中から邪悪と不義のパン種、「少しのパン種が粉のかたまり全体をふくらませる」邪悪の源である罪を欠片も残さずこしとるために、清めるために十字架についてくださいました。

18 あなたがたに言っておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない」。

19 またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。

20 食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。

次に共に食するのは神の国でだよと、イエス様は祝福と将来と希望のあるお話をして下さり、食卓で優しく給仕をしてくださいました。

しかしここに暗雲が垂れ込みます。

21 しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。

22 人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである」。

裏切る者。主イエス様を見誤り、救い主ではありえないと失望し、主を裏切って、どのタイミングならば民衆の目を避けて逮捕できるか、一緒になって計画した主の弟子がいました。ご自分の身体と血潮が注がれ、贖いに向かおうとされる主の崇高なお思いとご愛溢れるお優しい主の給仕の食卓にも、イスカリオテのユダは、その裏切る意を変えずに、主の仕えるお優しいお姿を見てもなお、主を裏切る気持ちを変えなかったのです。

「人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである」。

彼のゆえにイエス様は世を去っていくのではない。彼の業によって死が決定的になったのではなく、すでに定められたとおりの出来事が成るだけである。しかし、人の子を裏切るその人は、災いだ。私たちはそのイエス様の言葉の意味が分かります。自分の偏った思いのままに、イエス様を見誤り、三下り半をたたきつけ、その死に加担するということは、何という災い、何という悲しみでしょうか。

23 弟子たちは、自分たちのうちだれが、そんな事をしようとしているのだろうと、互に論

じはじめた。

24 それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起つた。

ここに二つの論争が湧き起こります。

一つは「裏切者は誰か」という犯人探し、そしてもう一つは、イエス様の「去られて」からの勢力争いです。

全く今日のワイドショーで扱われるようなどろどろのやじ馬話や権力闘争が繰り広げられるのです。

ついさっきまで、イエス様が、ご自分の身体と血とを捧げて世の罪のためのいけにえの小羊になる事が示唆され、そのご自身の命の身体と血潮をパンとぶどう酒にたとえて、主が優しく給仕して、弟子たちにご自分の命による過越の神様の救いを話したばかりだったのに、もう弟子たちはどこ吹く風、自分たちの好奇心を満たしたり、権力欲を満たしたりするのに躍起になっていました。ああ、お勞し(いたわし)や、イエス様、です。

25 そこでイエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者になるべきである。

27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

それらのことは、異邦の王たちの出来事ではないか。君臨し、権力をふるおう。そしてそのような絶対的な権力のもと、暴虐を振る舞うものが恩人と言われたり、名誉を受けたりするものだが、「しかし、あなたがたは、そうであってはならない」。

かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者になるべきである。

27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

これは、昔も今も、鮮烈なメッセージなのではないでしょうか。秩序をひっくり返す、革命的な出来事なのではないでしょうか。これがイエス様の素晴らしいところです。これが神様の素晴らしいところです。

らしさです。

レプタ銅貨2枚。しかし誰よりも多くささげた。しっかりと見ていて下さる神様は、私たち人類の罪の総和を支払うために何という畏れ多い、おびただしく多い代価のために実に神の御子、神ご自身を捧げて下さったのでしょうか。それほど大きい代価を捧げておられるのに、私たちが気付かないとしたら、なんと私たちの目は節穴、節穴の極みなのでしょうか。

主はご自身の身体と血潮をささげ、それをパンとぶどう酒にたとえて、私たちにご自分の身體と血潮を、その命を給仕してくださいました。このような指導者が、リーダーが、王が、神が他のどこを探して見いだされるのでしょうか。

28 あなたがたは、わたしの試錬のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。

29 それで、わたしの父が国を支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、

30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

「わたしの試錬のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たち」、本当にそうでしょうか。さっきまで汚い身内の争いをし、権力闘争をし、主を見捨て、散り散りに逃げる恩知らずの、不孝者、身勝手な人たちです。ゲッセマネの園でも耐えきれずに主の悲しみもよそに眠りこける者です。いったいどこの部分が「わたしの試錬のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たち」と言い得るのかよくわかりません。しかし主はそう呼んでくださるのです。主は最も偉い方でありながら、指導すべき方でありながら、最も若い者、仕える者、給仕役として弟子たちに、私たちにお仕えくださいます。

出来ていないこと、大失敗で覆いをかけて穴があいたら入りたいこと、取り返しのつかないこと、それらの至らなさを、失敗を、裏切りの罪を贖うるために身代わりになって下さるお方です。そうでいらっしゃいますから、わたくしたちはいよいよ、今度こそ、本当に、「わたしの試錬のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たち」となることが出来るのです。そしてイエス様はそんな箸にも棒にもかからない私たちを尊いと言ってください、イエス様に任せられているお仕事を私たちにも任せて下さり、ついには神の国での食卓にて、私たちをテーブルに着かせて下さり、あふれる喜びと共に食べ物と飲み物を下さり、またも仕えて下さるのです。

「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとて下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、

痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」 默示録 21:3-4

主の御名を心からほめたたえます！

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主イエス様のお思いをそっちのけにして、祭司長も律法学者も、民衆も弟子たちも、皆ごとごとく自分の事ばかり考える的外れの鳥合の衆でしたが、イエス様はその身勝手な者たちをこのほか愛してその身と血潮による犠牲を教えるためにパンとぶどう酒をもって優しく弟子たちに給仕してくださいました。かたくななエジプトの王のためにすべての初子という初子が死に定められましたが、門柱に小羊の血が塗られた家は死が過ぎ越されたごとく、主の犠牲により、私たちの家から悲惨が過ぎ越されることに感謝いたします。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン